

8 学校アクションプラン

令和4年度 砺波工業高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒の実態に対応した基礎学力の定着と自主的に学習に取り組む態度の育成	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力(計算力、文章読解力など)が不足している生徒が増えており、基礎計算力テストや宿題テストにより現状を把握し、補習を行うなどの対策を実施してきた。 基礎学力テスト(1年生対象)は5月と1月に実施し、平均点が51.7点(5月)から53.8点(1月)とわずかに向上した。特に工業科目で取り扱うことの多い単位換算の問題で良い結果が見られた。しかし、全体としては基礎学力の向上を実感するには至らなかった。 昨年度の家庭学習の状況は、全校生徒の約68.0%(7月)、約64.5%(12月)が毎日学習しているが、平均学習時間は33.1分(7月)、30.8分(12月)と少ない。 朝学習は学年ごとに課題を設けて有効に活用しているが、教師がいない時間は学習意欲低下するなどの課題が残る。学科やクラス単位では資格検定の学習に活用できている場面もある。 工業高校で取得可能な資格検定について「資格検定ガイドブック」を作成し、生徒が自ら積極的に取り組むきっかけになるようにした。 	
達成目標	○毎日学習をする生徒が70%以上	○生徒一人あたりの資格検定受験回数の平均2回以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> 基礎計算力テストの代替として外部テストを継続して実施し、学年と連携した朝学習や宿題テストなどにより、基礎学力の確実な定着と学習意欲の喚起に向けた指導の工夫・充実を図る。 将来の進路や得意分野の伸長のために、生徒自身で資格取得への目標を立て、学習の計画を立てて取り組むことで、授業以外の学習時間を有効に活用できるように工夫する。 ICT教育を積極的に活用し、生徒への指導内容・方法を研究し、生徒の学力向上や生徒の主体的な学びを育む。タブレット端末を活用した授業展開や朝学習・資格検定の学習に向けた効果的な利用方法を研究する。 観点別評価について、達成目標や評価基準を明確にし、生徒のやる気につながる成績評価を行う。 全クラスに対して資格検定ガイドブックを配付し、内容の周知を図り、「ジュニアマイスター顕彰」や「とやま高校生ものづくりマイスター」も目標として取り組ませる。 難度の低い資格の取得により自信や達成感を持たせ、段階的に高度な資格検定にチャレンジさせて意欲を高める。また、学年や学科を中心に、全教員で協力して補習体制を確立する。 	
達成度	毎日学習 68.0% (6月) → 65.0% (2月)	平均受検回数 2.07回 (昨年2.35回)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力を少しでも身に付けるために、一方で教員の負担を軽減するために、今年度から外部テストを活用した。朝学習として復習ドリル、夏季・冬季休業中の課題としてワークを、同じ業者のものを利用した。確認テスト内の中学までの既習問題で9月と1月実施結果を比較した。平均点が75点から77点に上がった。特に平均点30点以下の生徒数が15人から10人と減少したことから、少しばかりの向上と底上げを図ることができた。 毎日の学習時間(全校生徒)は、アンケート集計の「平日の平均学習時間」において「学習しない」を除く数値より算出した。68.0%(6月)から65.0%(2月)と低下した。1年は71%、2年は66%、3年は57%であった。平均学習時間は32.4分(R3 42.3分)であった。コロナ関連の出席停止となる生徒も多く、落ち着いて学校生活を送ることができない状況が続いている。 タブレット端末を活用した授業が珍しくなくなりつつある。授業だけでなく、リモート集会やアンケートの実施、集計に活用している。 1学年の通知表に観点別評価を記載している。何を頑張れば成績向上につながるのかが見える化し、保護者会等で説明プリントを配布した。 生徒一人の資格平均受験回数が2.07回(R3 2.35回)である。各科における資格取得へ向かう指導によるところが大きいのと思われる。資格検定ガイドブックを配布しているが、活用されているとはいえず、ジュニアマイスター顕彰等の魅力が生徒に響きにくくなっている。しかし将来の仕事に必要な資格や進学先分野に関する検定等は受験したいと考えている生徒が多い。 ジュニアマイスター表彰者は、ゴールド6名(R3 12名)、シルバー6名(R3 18名)となり、大きく減少した(今後の追加申請で数名が受賞予定)。 	
評価	C	B
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員に資格取得の意欲を高めるという目標があるが、生徒は何のために資格をとるのか意味を理解していないところがある。高校を選ぶ際に、工業は資格をとる学校であることを発信するなど、いろいろと提案模索してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が不足している生徒に対する継続的な指導及び学習意欲を高める工夫 ICT機器の効果的な活用を模索し、自宅学習や各科の実習、課題や朝学習への応用 学科ごとに取り組ませたい資格検定を設定し、将来の進路へつながる取り組み・指導方法の工夫 	

令和4年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動（専門）		
重点課題	自主的に資格検定に取り組む態度の育成		
現状	<p>(機械科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 合格しようとする意欲が全般的に薄れてきている。 難易度の高い資格検定に挑戦しようとする生徒が減少する傾向にある。 	<p>(電気科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 真面目ではあるが、物事に対して慎重に取り組む生徒が多く、コミュニケーションが苦手な生徒も多い。 学習面では基礎的な項目が身につけていない生徒が多い。 	<p>(電子科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニアマイスター受彰者数が一昨年9名、昨年12名になるなど、多数の資格を取得する生徒が増えているが、一方で、1年次以降に資格を取得しない生徒も多い。
達成目標	1年次受験の計算技術検定、丙種危険物、情報技術検定の全てに合格する生徒の割合70%以上	卒業時の合格率 第2種電気工事士90%以上 第1種電気工事士60%以上	電子科全生徒の年間の資格検定合格数160件以上(卒業時の一人当たりの資格検定取得平均4個)
方策	<ul style="list-style-type: none"> 上記の3つの資格検定については、卒業までに取得するよう指導する。 受験する資格検定は、必ず合格しようとする意識付けを行う。 学科で作成の実習テキストにジュニアマイスター顕彰受賞モデルケースを記載する。 成績不審者のスクリーニングを行い、朝補習や放課後、休日等に補習を行う。 生徒間で教えあうことで、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス全員で合格するという雰囲気を作る。 各資格の学習指導を学科内チームとして行い、生徒の学習状況を指導者で共有する。 適宜、朝補習、放課後補習を行い、知識等の定着を図る。 生徒相互間で教え合う環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の意義を理解させる。 計画的な補習や模擬試験を行う。 具体的な勉強方法の提示などにより、家庭学習の定着を促す。 生徒同士で教え合う環境をつくる。 再受験者に対し、個別の補習指導を行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 1年時に全員が受験する基礎的な3資格全てに合格した生徒の割合は33%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2種電気工事士に3年生全員が合格した。(2年生94.8%、1年生100%) 第1種電気工事士に12名合格した。(3年生13名受験92.3%、2年生42.9%) 第3種電気主任技術者 1名合格 ジュニアマイスター受彰 7名(特別表彰1名、ゴールド1名、シルバー5名) 	<ul style="list-style-type: none"> 電子科全生徒の資格合格数の合計は101件で目標に達することができなかった。(昨年162件) ジュニアマイスター受彰者3名(知事表彰1名) (昨年度の受賞者は12名)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各資格担当者が朝学習時間や放課後、休日等に補習を行った。 全てに合格するという意識付けを行うことは効果的であり、今後も続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が合格するという雰囲気作りを行った。そのため、1年生も全員合格できた。(第2種電気工事士) 早い時期から補習を行い、部活動に取り組む生徒にも休日などを利用して、補習を行った。 分からない生徒は分かる生徒に教えてもらうように仕向けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題および模擬問題を自宅で行い、朝補習等で解答・解説をする手法でも学習を進めた。 座席位置やグループ学習に配慮しながら、生徒同士で教え合う雰囲気作りに努めた。
評価	C 本年度33%(昨年度48.2%)	A (2種全員合格、1種92.3%)	C (資格合格数は合計101件)
学校関係者の意見	資格検定への取り組みについて、指導は大変だと思うが継続してほしい。3年卒業時までの目標を明確にしたほうがよい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 電気科生徒は、第2種電気工事士を取らなければならないという意識付けがなされているので、これを継続していきたい。電気主任技術者試験は、1年次から計画的に取り組めるサポート体制が必要である。また、技能検定(シーケンス制御)や工事担任者試験向けの補習体制についても考えてきたい。 生徒全員に資格取得意欲を高めるとともに、学年進行に合わせて計画的な取り組みを進める。 		

令和4年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣とモラルの確立	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の乱れが学習活動に悪影響を及ぼしている生徒がいる。単純に比較はできないが、昨年度に比べて増加している。 ・体調不良を訴えて欠席する生徒が散見される。 ・私物管理の意識が低い生徒が少なくない。貴重品の紛失や持ち主の見つからない落とし物も増えている。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の欠席数・遅刻数・早退数のそれぞれ10%減を目標とする。 ・盗難や紛失件数「0」を目指す。 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各科や学年、保健厚生部等と連携し、学業を中心とした生活習慣の確立・維持を促す。 ・学年で実施している朝学習をもとに、毎朝の遅刻指導を徹底し、声かけをする。 ・各アンケートを活用し、生徒との面談を充実させ、問題を抱える生徒にはともに原因を探り解決策を見いだす。 ・教室や部室の施錠徹底や自転車カギかけチェックを実施（生活安全委員）する。 ・学年や部活動顧問と連携し、教室や部室の環境整備に努め、私物の管理を徹底させる。 	
達成度	<p><過年度と本年度のデータ比較（12月までの合計）></p> <p>欠 席 - 0.7% + 25% （長期欠席者込み）</p> <p>遅 刻 + 30% （うち怠惰による遅刻 + 50%）</p> <p>早 退 - 4%</p> <p>※ 昨年度2学期 ～9/10 休校期間</p> <p>盗難・紛失 0件</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣やスマホ・ネット利用に関するアンケートを実施し、自らの生活を振り返る機会を持った。また、結果をもとに生徒の生活習慣の向上について協議を行った。 ・学年実施の朝学習と連動し、玄関での遅刻指導、声かけを積極的に行った。遅刻した生徒には面談及び翌朝の清掃奉仕活動を通して改善を促した。 ・QUアンケートや休業明けアンケート等を実施し、生徒の実態把握・理解に努め、問題を抱える生徒の発見・予防・対応に関係部署と協力した。学校カウンセラー等にも協力いただいた。 ・指導に注意を要する不登校気味の生徒についてケース会議を行い、情報を共有し対応に共通理解を図った。 ・スマホやネット利用について外部講師を複数回招聘し、ゲームやインターネットの長時間利用の危険性や基本的生活習慣維持の重要性についても啓蒙した。 ・保健部では毎月保健だよりを発行し、生徒に体調管理について啓蒙した。 ・私物・貴重品の管理と教室の施錠を徹底するよう声かけし、授業中に教室棟の巡回を行った。 ・被害調査を学期ごとに実施し、状況把握や盗難・紛失の未然防止に努めた。 	
評価	C	・引き続きコロナ禍の影響もあり、欠席数が多い。また、長期欠席者が増えている。
	A	・今年度は現在まで盗難は0である。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害やLGBTQ、ヤングケアラーなど生徒の実態把握・理解に努め、問題を抱える生徒の早期発見に努め、共通理解を図りながら、組織的に対応してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<p>長期欠席者が増加している。また多様な悩みを抱えて授業や学校生活に集中できないなど問題を抱える生徒が散見される。引き続きアンテナを高く張り、生徒の様子・変化を見逃さず理解に努め、場合によって外部の専門家を積極的に活用し、チーム学校として組織的に対応する必要がある。いじめ事案も含め、教員が情報を共有し組織として対応する体制をさらに整えることが重要である。</p> <p>全国的に校則の見直しが進められているが、本校においても生徒の実態や地域の要請、時代の変化に合わせ、常に見直しをかけていく必要がある。</p>	

令和4年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	進路支援	
重点課題	学年、科と連携した進路指導の充実および自己理解を通じた進路支援	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症やヨーロッパにおける戦争の影響により、企業の求人が減少し、就職環境の悪化が予想される。 ・基礎学力やコミュニケーション能力が不足している生徒がいる。 	
達成目標	年度内進路決定 100%	
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との積極的な情報交換により、企業のニーズを捉え生徒・学年に伝え生徒の就職活動に活かす。 ・進路に悩む生徒との面談を実施し、進路指導の立場からアドバイスする。 ・基礎学力やコミュニケーション能力の不足が心配される生徒を早期に把握し、学年、科との連携の下に本人の希望や適性に応じた進路先の確保・開拓に努める。就労困難な生徒の場合はハローワーク等の専門機関と連携し適切な進路決定を目指す。 ・職業適性検査や自己分析の実施と就職スタートブック（労働局）の活用。 ・面接指導の充実により、面接試験だけでなく就労意識の向上を目指す。 ・HR時に、自己分析の時間を設ける。適性を考えるVTR教材の活用を図る。 ・進路の手引きを全学年に配布し、生徒と保護者に進路決定の流れを知ってもらう。 ・校外学習や工場見学、インターンシップ、応募前見学、オープンキャンパスを通じて企業や学校を知り、進路決定するように指導する。 	
達成度	<p>就職希望者 106 名全員が内定。進学希望者 49 名中、48 名の進学先が決定している。残り 1 名が一般受験継続中であるが、併願による進路先の確保を希望せず、一般受験による大学進学を強く目指しているための進学先未定である。</p> <p>しかし、卒業予定者全員の進路決定ではなく、目標は達成できなかった。(2/8 現在)</p>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の3年生進路保護者会では、進路決定までの流れや注意すべきポイントを記したプリントを作成し、保護者に配布した。学年、科との連携もスムーズに進み、進路決定までの流れを確実に保護者に伝達できた。 ・7月求人受付状況を一覧で提示し、就職希望者は一人2社以上見学。進学希望者に向けて国数英物理の補習実施や個別添削指導。オープンキャンパスも行くように指導。 ・オンラインで実施された企業説明会や学校説明会に適切に対応できた。 ・9月学校全体で面接指導に取り組み、就職、入学試験に向かわせた。 ・1年時から進路希望を取り、工場や学校見学、進路ガイダンス、インターンシップを通して進路先を知り、3年時で進路を決定するまでの流れができています。 	
評価	A	卒業生全員の進路先が決定
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、企業と情報交換をしながら、脱炭素社会や電気EV化、将来の流れを見ながら、成長産業へ生徒を送り、社会発展に努めてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や進学先で必要なコミュニケーション能力や挨拶、マナーを授業や部活動、学校行事や学級活動などで引き続き指導する。 ・進学先でのミスマッチを防ぎ、中途退学をなくすように補習等で基礎学力の定着を図る。 ・就職先でのミスマッチを防ぎ、早期離職をなくすように、進路希望調査を効果的に利用し生徒の職業意識の醸成を図る。 	

令和4年度 砺波工業高等学校アクションプラン -5-

重点項目	特別活動															
重点課題	部活動の充実															
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の部活動加入制を取っており、運動部に63%、文化部に33%の生徒が所属しているが、4%の生徒が部活動に無所属である。 ・昨年度の部活動に関するアンケートにおいて、各自の取り組みについての満足度自己評価で「とても満足できた」と「満足できた」と回答した生徒は65%であった。 ・昨年度はコロナウイルス感染症の影響で部活動が十分行えなかった。 															
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への各自の取り組みについての満足度自己評価において「とても満足できた」または「満足できた」が70%以上 															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・激励会において、全校生徒で選手を応援することで母校の代表としての活躍を期待する。 ・生徒の活躍を校内で披露し、他の生徒のよき手本を示し、その波及効果を期待する。 ・生徒会活動、学校行事等でリーダー活動を経験させ、各部活動の主体的活動につなげる。 ・全国大会出場の際の懸垂幕掲示や学校ホームページへの掲載を通して学校外に広報し、部活動への関心と期待を高め、部活動の一層の充実を図る。 ・部活動指導員、スポーツエキスパート等により部活動指導体制の強化を図る。 ・全国大会活躍報告会の実施により、全校生徒で結果を共有するとともに、各部に波及効果を与える。 															
達 成 度	<p>1 月末に全校生徒に実施したアンケート結果</p> <table border="0"> <tr> <td>・部活動への各自の満足度(4段階)</td> <td>とても満足できた</td> <td>30%</td> <td>満足できた</td> <td>55%</td> <td>計</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>・部活動への貢献度(4段階)</td> <td>とても貢献できた</td> <td>18%</td> <td>貢献できた</td> <td>47%</td> <td>計</td> <td>65%</td> </tr> </table>		・部活動への各自の満足度(4段階)	とても満足できた	30%	満足できた	55%	計	85%	・部活動への貢献度(4段階)	とても貢献できた	18%	貢献できた	47%	計	65%
・部活動への各自の満足度(4段階)	とても満足できた	30%	満足できた	55%	計	85%										
・部活動への貢献度(4段階)	とても貢献できた	18%	貢献できた	47%	計	65%										
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、体育大会、鷹工展などの学校行事を通常開催できた。そのため、生徒主体でリーダーを中心とした活動を経験させることができた。 ・PTA通信、砺工新聞、学校HP、職員室前に賞状コピーの掲示等で活動結果を広報した。 ・全国大会に出場する部活動については懸垂幕を作成し学校正面側に掲示した。 ・賞状伝達を実施し、各予選会での活躍を披露した。 ・激励会を実施し、各予選会での活躍を祈念し、全生徒から上位大会で活躍するよう選手を激励した。 ・スキー部、吹奏楽部は部活動指導員、野球部、剣道部はスポーツエキスパートの制度を活用し、指導体制が充実した。 															
評 価	B	<p>コロナの影響が少なくなり各大会が通常通り実施されたため、部活動の取り組みに関して満足できたと答える生徒が増えたと考えられる。</p> <p>全国大会には弓道部（個人・インターハイ）、機械工学部（アイデア・相撲ロボット）、電子工学部（マイコンカー）、スキー部（個人・インターハイ、国体）が出場した。</p>														
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション能力があり、挨拶ができるなど人間力を高め、元気で明るい生徒を育成してほしい。 															
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動のさらなる充実や成績の向上には、外部指導員を積極的に導入する必要がある。 ・充実した部活動にするため、指導者と生徒が運営方法などについて話し合うなど、お互い協力しながら活動していくことが必要だと考える。 															